

キャリア開発学科

[2023年度以降入学生に適用]

教育目標

“キャリア”とは、働く場あるいは生活する場でのさまざまな関わりの中で、自己の価値を形成し、それをそれぞれの場で生かすための努力過程である。このようなキャリア形成に絶えず努め、それぞれの場において貢献し得る、人間性豊かな人材を育成する。

- (1) 企業や経済の仕組みを理解し、ビジネスの視点から地域社会との関わりの中で自己の立場を捉え、積極的に職務を遂行する自律した職場のリーダーとして活躍できる職業人を育成する。
- (2) 社会的存在としての自己と他者との関わりあいを理解し、複雑化する人間関係を円滑にするための、適切な自己表現やコミュニケーションができる社会人を育成する。
- (3) 生活の基盤である家庭の持つ役割の大切さを理解し、仕事と生活の調和を保つことにより、豊かな生活文化を築くことのできる家庭人を育成する。
- (4) 自らの課題探求と解決能力としてのキャリアを高めるとともに、時代や環境の変化等を広い視野から展望し、柔軟に対応できる人材を育成する。

ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）

本学科では、2年以上在学し本学の課程を修め、かつ次のような資質・能力を備えた者に短期大学士(家政経済学)の学位を授与します。

態度・志向性

1. 意義ある自己のライフスタイルを考えるとともに、社会生活を広い視野から捉え、自己啓発・自己形成に能動的に取り組む態度を身につけている。
2. 自己の置かれた立場と役割を把握し、TPOに応じた立ち居振る舞いや目標達成に向けて進むべき方向を示すことができる。
3. 多様な価値観の存在、複雑な現代社会を理解し、家庭・職場・地域社会において、人間関係を円滑に営むための柔軟性と調和のとれた態度を身につけている。

知識・技能

1. 社会、経済、及びビジネスの基本を理解し、情報処理、ICTを含むビジネス実務に関する知識・技能を修得している。
2. 地域社会や日本についてはもとより、外国文化や国際情勢を理解し、語学力を修得している。
3. 家族、家庭の衣食住、家庭経営の基本を理解し、それに関する知識・技能を修得している。
4. 社会・人文・自然科学など幅広い教養とマナー、コミュニケーション能力を身につけている。

実践力・応用力

1. 学修した社会やビジネスに関する知識や技能、語学力、家庭生活に関する知識や技能、そして身につけた教養やコミュニケーション能力を活かして、自ら課題を発見し、能動的に取り組み解決することで、家庭・職場・地域社会における活動を、効率的かつ豊かにすすめることができる。

カリキュラムポリシー（教育課程の編成方針）

本学科では、本学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）に掲げる知識・技能などの目標を達成するために、共通教育科目、専門教育科目及びその他必要とする科目を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を開講します。カリキュラムは「基盤分野」「教養分野」「家政分野」「ビジネス分野」「語学分野」「フィールドワーク分野」の6つの科目群で編成し、「基盤分野」は必修とします。

態度・志向性

1. 自己の適性や将来の職業について考え、自らキャリアを形成できるように、キャリア開発に関する科目を「基盤分野」に配置する。
2. 専門性や地域にとらわれることなく広い視野から思考力・行動力を身につけ、また、人間関係を円滑に営むための科目を「教養分野」「ビジネス分野」「フィールドワーク分野」に配置する。

知識・技能

1. ビジネス実務に必要な情報処理、経済、会計、語学、ビジネスマナーに関する科目を「基盤分野」「ビジネス分野」「語学分野」に配置する。
2. 家庭生活を円滑に行うために必須の衣・食・住、育児、介護、仕事と生活の関係を考える科目を「家政分野」に配置する。
3. 豊かな人間性・社会性を育成するための科目を「教養分野」に配置する。

実践力・応用力

1. 「基盤分野」から「語学分野」までの5つの分野で修得した知識・技能を活かして、実体験を通して課題を発見し問題を積極的に解決できる力を身につけるための科目を「基盤分野」「フィールドワーク分野」に配置する。

学修成果の評価は、シラバスに記載した各科目の到達目標に基づき、その到達度に応じた成績評価基準を設けて適正に行います。

アドミッションポリシー（入学者の受入方針）

キャリア開発学科（以下、「本学科」という）では、ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーに定める教育を受けるための条件として、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた人を求めます。

1. 本学科のディプロマポリシー及びアドミッションポリシー、シラバスを熟読し、学科のポリシーや教育目標、各科目内容を十分に理解している人
2. 高等学校卒業レベルの基礎的な学力及び思考力、行動力を有している人
3. エチケット・マナー、コミュニケーション能力の重要性を認識し、その向上に励む意志を持っている人
4. 自律した職業人・社会人、職場のリーダーを目指して、自己のキャリア形成に強い意欲を持っている人
5. 将来、身につけた知識・技能を職場や家庭で活かし、社会にも還元する強い意志を持っている人

【入学前の学習について】

1. 特定の科目に偏ることなく、高等学校で学習した全ての科目を復習しておくことが望まれる。
2. 新聞やIT等を利用し、日本はもとより世界のビジネスに興味・関心をもち、自分のキャリアについて考えておくことが望まれる。
3. 本学科が行う入学前教育に積極的に取り組み、本学科で何を学ぶのか、卒業後のキャリアについて考える。また、指定された課題を学習し、入学後の学修に備える。

キャリア開発学科

[2022年度以前入学生に適用]

教育目標

“キャリア”とは、働く場あるいは生活する場でのさまざまな関わりの中で、自己の価値を形成し、それをそれぞれの場で生かすための努力過程である。このようなキャリア形成に絶えず努め、それぞれの場において貢献し得る、人間性豊かな人材を育成する。

- (1) 企業や経済の仕組みを理解し、ビジネスの視点から地域社会との関わりの中で自己の立場を捉え、積極的に職務を遂行する自律した職場のリーダーとして活躍できる職業人を育成する。
- (2) 社会的存在としての自己と他者との関わりあいを理解し、複雑化する人間関係を円滑にするための、適切な自己表現やコミュニケーションができる社会人を育成する。
- (3) 生活の基盤である家庭の持つ役割の大切さを理解し、仕事と生活の調和を保つことにより、豊かな生活文化を築くことのできる家庭人を育成する。
- (4) 自らの課題探求と解決能力としてのキャリアを高めるとともに、時代や環境の変化等を広い視野から展望し、柔軟に対応できる人材を育成する。

ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）

本学科では、2年以上在学し本学の課程を修め、かつ次のような資質・能力を備えた者に短期大学士(家政経済学)の学位を授与します。

態度・志向性

1. 意義ある自己のライフスタイルを考えるとともに、社会生活を広い視野から捉え、自己啓発・自己形成に能動的に取り組む態度を身につけている。
2. 自己の置かれた立場と役割を把握し、TPOに応じた立ち居振る舞いや目標達成に向けて進むべき方向を示すことができる。
3. 多様な価値観の存在、複雑な現代社会を理解し、家庭・職場・地域社会において、人間関係を円滑に営むための柔軟性と調和のとれた態度を身につけている。

知識・技能

1. 社会、経済、およびビジネスの基本を理解し、情報処理、ICTを含むビジネス実務に関する知識・技能を修得している。
2. 地域社会や日本についてはもとより、外国文化や国際情勢を理解し、英語を中心とした語学力を修得している。
3. 家族、家庭の衣食住、家庭経営の基本を理解し、それに関する知識・技能を修得している。
4. 社会・人文・自然科学など幅広い教養とマナー、コミュニケーション能力を身につけている。

実践力・応用力

1. 学修した社会やビジネスに関する知識や技能、英語を中心とした語学力、家庭生活に関する知識や技能、そして身につけた教養やコミュニケーション能力を活かして、自ら課題を発見し、能動的に取り組むことで、家庭・職場・地域社会における活動を、効率的かつ豊かにすすめることができる。

カリキュラムポリシー（教育課程の編成方針）

本学科では、本学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）に掲げる知識・技能などの目標を達成するために、共通教育科目、専門教育科目及びその他必要とする科目を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を開講します。カリキュラムは「基盤分野」「教養分野」「家政分野」「ビジネス分野」「語学分野」「フィールドワーク分野」の6つの科目群で編成し、「基盤分野」は必修・選択必修とします。

態度・志向性

1. 自己の適性や将来の職業について考え、自らキャリアを形成できるように、キャリア開発に関する科目を「基盤分野」に配置する。
2. 専門性や地域にとらわれることなく広い視野から思考力・行動力を身につけ、また、人間関係を円滑に営むための科目を「教養分野」「ビジネス分野」「フィールドワーク分野」に配置する。

知識・技能

1. ビジネス実務に必要な情報処理、経済、会計、語学、ビジネスマナーに関する科目を「基盤分野」「ビジネス分野」「語学分野」に配置する。
2. 家庭生活を円滑に行うために必須の衣・食・住、育児、介護、仕事と生活の関係を考える科目を「家政分野」に配置する。
3. 豊かな人間性・社会性を育成するための科目を「教養分野」に配置する。

実践力・応用力

1. 「基盤分野」から「語学分野」までの5つの分野で修得した知識・技能を活かして、実体験を通して課題を発見し問題を積極的に解決できる力を身につけるための科目を「基盤分野」「フィールドワーク分野」に配置する。

学修成果の評価は、シラバスに記載した各科目の到達目標に基づき、その到達度に応じた成績評価基準を設けて適正に行います。

アドミッションポリシー（入学者の受入方針）

キャリア開発学科（以下、「本学科」という）では、ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーに定める教育を受けるための条件として、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた人を求めます。

1. 本学科のディプロマポリシーおよびアドミッションポリシー、シラバスを熟読し、学科のポリシーや教育目標、各科目内容を十分に理解している人
2. 高等学校卒業レベルの基礎的な学力および思考力、行動力を有している人
3. エチケット・マナー、コミュニケーション能力の重要性を認識し、その向上に励む意志を持っている人
4. 自律した職業人・社会人、職場のリーダーを目指して、自己のキャリア形成に強い意欲を持っている人
5. 将来、身につけた知識・技能を職場や家庭で活かし、社会にも還元する強い意志を持っている人

【入学前の学習について】

1. 特定の科目に偏ることなく、高等学校で学習した全ての科目を復習しておくことが望まれる。
2. 新聞やIT等を利用し、日本はもとより世界のビジネスに興味・関心をもち、自分のキャリアについて考えておくことが望まれる。
3. 本学科が行う入学前教育に積極的に取り組み、本学科で何を学ぶのか、卒業後のキャリアについて考える。また、指定された課題を学習し、入学後の学修に備える。